手稲山地区地すべり対策に関する説明会
開催概要

■日　時：令和7年7月24日　18時00分～19時40分
■場　所：手稲コミュニティセンター　ホール
■参加者：地域住民　104名
■説　明：
（１）手稲山地区地すべりの概要について
（２）手稲山地区の地すべり対策について
（３）土砂災害での避難のポイント

【質疑応答】
参加者：手稲山地区地すべりに関する現状や取組について理解が深まった。
今後の予定、取組、工事の計画など引き続き情報共有をお願いしたい。
また、気候変動による異常気象により災害も増えてきているので、早期に対策を行っていただきたい。自然環境や生活環境への影響をできるだけ小さくなるよう計画してほしい。
事務局：今後の計画に反映したい。適宜情報共有させていただく。

参加者：手稲山地区の地すべりと新幹線工事との因果関係はないのか。
新幹線のトンネル工事は地すべり防止区域の下で行われており、工事の振動により地すべりの発生を助長することはないのか。
事務局：手稲山地区の地すべり面の深さは、これまでの調査結果より、概ね20～30m程度であると推定している。一方で、新幹線のトンネル工事は、地すべりに影響しない深い位置であり、因果関係はないと認識しているが、新幹線工事を担当する鉄道・運輸機構と引き続き情報共有を図って参りたい。

参加者：土砂災害警戒区域（イエローゾーン）であるのにも関わらず、現在も新築工事している方がいるが、行政側から助言や警告は行わないのか。これから住宅を建てる人にとっては大事な問題。
事務局：土砂災害警戒区域内で不動産取引をする際は、宅地建物取引業法に基づく重要説明事項になっている。土砂災害警戒区域（イエローゾーン）については、建築物の制限はないが、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）については、建築物の構造規制や要配慮者利用施設などの立地に制限がかかる。
行政として、引き続き土砂災害警戒区域等により、土砂災害の危険性について周知していきたい。

参加者：手稲山地区は地すべりのおそれがあるとのことだが、裏斜面の五天山方面との違いは何か？

事務局：手稲山地区では６～７万年前に山体崩壊を起源とした岩屑なだれが発生しており、地すべりを引き起こすおそれのある堆積物が広域に分布しているのに対し、五天山方面については、そういった地形の変遷がない。

参加者：今回の説明会は計画段階評価の一部なのか。また、事業化までの手続きについて流れを確認したい。

事務局：今回の説明会は計画段階評価の一部ではない。国土交通省として直轄化が見込まれると判断した場合、計画段階評価の手続きに入ることになる。
計画段階評価では、事務局より複数案の比較評価を行い、都道府県知事の意見を聴いた上で、第三者委員会の意見を聴き対応方針案を国土交通省に提出し、その結果、妥当と判断された場合には、新規事業の可否を総合的に評価する「新規事業採択時評価」の手続きを経て、直轄事業として認められる流れとなる。

参加者：工事着手が何時になるのか知りたい。
また、工事が完了するまでの間に地すべりが発生した場合、補償はあるのか。

事務局：事業着手後に測量、地質調査及び設計や、施工方法の検討を行ったうえで工事着手することになる。現段階では、詳細な日程はお示しできない。
また、自然災害である以上、補償はないと認識している。

参加者：地すべり対策工事が完了するまで何年かかるのか。災害はいつ起きるかわからない状況の中で不安である。早期に着工し、安心して住める地域にしていただきたい。

事務局：現段階において、手稲山地区での事業期間は未定だが、地すべり防止区域の規模が類似する地区では 20 年としている事例がある。今後の詳細な設計結果等を踏まえて検討していきたい。
手稲山地区には複数の地すべりブロックが存在しているため、優先順位をつけて対策を行い事業効果の早期発現に努めていく。

参加者：工事が完了した場合、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）の指定は解除されるのか。

事務局：対策工事を実施しても、それを超える規模の災害が発生する可能性があるため土砂災害警戒区域（イエローゾーン）は解除されない。

参加者：地すべり対策について、何もしない場合のリスクに対し、地すべり対策を行うと、どれだけ安全になるのか。

事務局：経験則的に安全率を10%程度上げることにより、地すべりが止まると言われている。手稲山地区においても同様に安全率を上げることを考えている。

参加者：避難情報が警戒レベル3になった場合、手稲中央小学校が最も近いが、災害が発生するまでの間に避難が間に合うのか心配。

事務局：土砂災害については、警戒レベル3は高齢者等避難であり、避難時間を考慮して発令されることになる。地域で協力いただきながら、早めの避難をお願いしたい。

参加者：稲穂地区で土砂災害が起きた場合は、稲穂小学校、稲穂中学校が避難所として使用できないので、代わりに手稲西小学校、中学校、手稲中央小学校、富丘小学校等を利用すると説明がされたが、稲穂地区の方は高齢者も多いのに、どのように避難できると考えているのか。警察、消防、自衛隊や、バス会社といった地域の企業が協力して、人員輸送を行うこととしているとか、そのような連携はしているのか。住民を安心させたいのであれば、そのような情報を提供するべきである。

事務局：おおよそ2㎞圏内に避難所を配置することにしており、基本的には小中学校が多いが、お寺なども避難所として開設する場合もある。また、近くにホテルや知人宅があればそれも避難と考えており、有事の際は行動していただきたい。
また、警察、消防、自衛隊などとは日頃より顔の見える関係は構築しており、情報共有や訓練を実施しているところ。ご意見を踏まえて引き続き連携体制等検討していきたい。

以上